平成20年9月1日 国土交通省国計調第26号承認

# 広域的地域活性化基盤整備計画

つくばエクスプレス沿線地域

# とうきょう と 東京都

かんけいくしちょうそん( ちょだく 関係区市町村(千代田区、台東区、墨田区、荒川区、足立区)

平成20年7月 作成 平成20年9月 承認

# 広域的地域活性化基盤整備計画の目標及び計画期間

	都道府県名	東京都	計画の名称	つくばエクスプレス沿線地域	
Ī	計画期間	平成20年度 ~ 平成2	4年度	交付期間	平成20年度 ~ 平成24年度

#### 広域的特定活動

本地域は、秋葉原の電気街、アメ横等に象徴される上野・浅草の歴史や文化を活かした商店街や老舗百貨店、北千住・南千住における下町情緒と新たな街並みの調和による商業集積、埼玉・千葉 のつくばエクスプレス(TX)駅周辺の大規模SC群等、それぞれの特徴を持った商業拠点がTXの開通によって結ばれ、人の交流が生まれている。

これらの商業拠点への来訪者の増加を図るため、秋葉原地区においては新たな商業集積に必要な都市基盤整備を進め、六町・花畑地区等では、地域交通ネットワーク拠点であるTX駅へのアクセ ス道路の整備、都市居住基盤づくりを行い、また、各商業拠点の魅力の拡大及び人々の交流の場の整備を進めることで、周辺地域からのさらなる人の集積と交流の拡大を図り、TX沿線での広域的な 商業活動を促進する。

#### 目標

TX沿線地域の広域的地域拠点として、魅力ある商業活動拠点を育成するとともに、その周辺の沿線地域において良質な居住環境の形成を推進することにより、沿線地域の居住人口とTXの利用者 を拡大し、商業活動拠点への来訪者の増大及びそこで行われる商業活動の促進を図ることで、TX沿線地域の持続的な活性化を実現することを目標とする。

#### 目標設定の根拠

#### 経緯及び現況

TX沿線地域である秋葉原地区、上野・浅草地区及び北千住・南千住地区は、沿線のターミナル駅周辺地域であるとともに、都の「業務業務施設マスタープラン」おいて、それぞれ新拠点、副都心、一般拠点地区に位置づけられており、交通結節点としての立地条件を活かした広域的な商業活動の拠点としての役割を発揮していくことが期待されている。また、こうした商業活動の拠点地域の育成とともに、六町四丁目地区や花畑北部地区をはじめ、TX沿線地域では、宅鉄法に基づき住宅地の円滑な供給を図ることで、TX利用者の拡大と沿線地域の持続的発展に寄与することが期待されている。

しかし、秋葉原地区等の商業活動の拠点地域においては、都市基盤の整備の遅れにより、東西を結ぶ路線が不足し、地域の持つポテンシャルを活かしきれていない。また、六町四丁目地区、花畑北部地区等の拠点地域周辺では、住民の生活の向上と秩序ある発展に寄与する基盤整備の遅れが宅地供給・人口定着を阻んでおり、TX沿線における広域的な交流人口の拡大の支障となっている。その他の地域では、沿線地域の持続的な活性化に寄与するような魅力が充分に引き出されていない状況にある。

#### 課題

- ・東京の新拠点地区である秋葉原地区では、ICT系産業の集積・連携と商業施設整備を目指すための都市基盤整備や駅施設などの都市活動施設を整備する必要がある。
- ・東京の副都心地区である上野・浅草地域、一般拠点地区である北千住・南千住地域では、地域の特性を活かした魅力ある商業活動の拠点地域として育成する必要がある。
- ・六町四丁目地区及び花畑北部地区などの商業活動拠点周辺部では、宅地供給を促進させることにより、TX利用者の拡大を図り、広域的商業拠点への来訪者の増大を図る。
- ・TX利用者の拡大を推進し、TX沿線地域(埼玉・千葉・東京)の定住人口の増加と魅力ある商業活動拠点を活性化することで、沿線地域の持続的な発展を実現する必要がある。

## 将来ビジョン(中長期)

・秋葉原地区は、土地区画整理事業に合わせ、適切な土地利用を進め、交通結節点の形成、東西市街地の一体的利用、商業・業務の機能の向上等を推進し、賑わいのある複合市街地の形成を 図る。六町四丁目地区、花畑北部地区では、TX六町駅を拠点として土地区画整理事業を進め、土地利用の増進を図るとともに、公共施設を整備改善することで、良好な住環境を形成し、都市型 住宅の供給を促進する。こうしたTX沿線地域の市街地開発事業等を一体的に推進し、沿線における商業活動拠点の育成と住宅地の供給を同時に促進することで、TX利用者の増大・広域的な人 口交流の拡大を図り、TX沿線地域の持続的な活性化を実現する。

#### 目標を定量化する指標

指標		定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
	単位	<b>上我</b>	日保と相保及い日保恒の民建任		基準年度		目標年度
TXの乗車人数	人/日	TX(秋葉原~流山おおたかの森間)の乗車人数	TXを利用した沿線地域の人口交流・活性化	183,000	H20	211,000	H24
TX秋葉原駅の乗車人数	人/日	TX秋葉原駅 降客数(定期外)	重点地区内で商業活動等を行う交流人口	24,500	H20	28,760	H24
商業活動拠点の販売額	百万円	重点地区内の小売事業所の販売額	重点地区内の商業活動の活性化	442,529	H20	464,600	H24

# 拠点施設

施設名	秋葉原商業施設群(東京都新拠点)	所 在 地	東京都千代田区・台東区 秋葉原駅周辺
設 置 主 体	民間会社	管理•運営主体	民間会社
設置(予定)年月	新設·既設	拠点施設の区分	商業施設等(省令第3条1項3号)
広域的特定活動の区分	  広域的地域活性化を図る商業活動(省令第1条1項3号)	拠点施設の整備の有無	有 · 無

#### 拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等

#### <概要及び整備計画>

本商業施設群は、駅周辺におけるTX整備に合わせた土地区画整理事業の実施等を背景として、延べ約37万㎡の大規模業務・商業施設ビルの集積が進んでおり、「世界の電気街」としての大きな魅 カに加え、「IT(情報技術)都市」、「産学連携都市」、そして「アニメ」や「オタク文化」などの情報発信地として国内外から多く注目されている。今後、ビジネスに、そして観光に秋葉原を訪れる人は一層 増加していくことが予想されており、TXの都市への玄関口となる商業施設群として重要な拠点となっている。

秋葉原電気街に新たに建設されるイベントホール(延べ床約2,000㎡)を備えた複合施設では、電気街にふさわしい新たなイベントの開催による集客者数の増加が見込まれるとともに、秋葉原駅電気 街口に新駅ビルが建築されることで、電気街口からの人の動線も確保され、まちの回遊性の効果と集客力が上昇する。また、新たなICT関連産業の集積が見込まれる建築物計画も複数存在し、さら なる人々の交流の活性化が期待されている。

#### <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性>

秋葉原にて従来から行われている電気街及びソフト産業における商業活動や、新たに立地する多目的ホール、新築される秋葉原電気街口の駅ビル等における商業活動の活性化を促進するために は、秋葉原地区の都市基盤整備を推進し、人の交流の場を整備することで、既存の電気街と新たなICT関連産業との連携・交流を活性化することが必要である。

#### <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係>

世界的な電気街であり、ICT産業の集積が進む秋葉原の人の交流機能等を向上させ商業活動を活性化させるとともに、TXの都心の玄関口となる商業施設群として育成することで、沿線の居住人口とTXの利用者の拡大やTXを活用した拠点間の交流を促進し、本地域拠点施設への来訪者の増大を図る。

## 拠点施設で行われる広域的特定活動の内容

#### <現況>

新たな商業活動の拠点を形成させるベースとなる基盤整備は収束を向かえつつあるが、鉄道路線により東西が分断された状況にあり、新拠点の交流基盤となる地区内の回遊性の機能が不足して いる状況にある。

### <将来>

都市基盤が整備されることにより、秋葉原を訪れた人々の交流の場が整備され、既存の電気街と新たなICT関連産業との連携・交流が円滑することで、TX沿線における商業活動の活性化の拠点となる。

#### 広域的特定活動との関係

#### <拠点施設整備の蓋然性>

秋葉原新拠点の業務商業地域は、鉄道ターミナルを中心に都市基盤施設が整備され、オフィス、商業施設等の集積も大きく、利便性も高い。さらなる商業施設の集積を図るために、基盤整備を進め るには、最も適した地域である。

## <拠点施設に設定した理由>

秋葉原商業施設群は、TX沿線の商業活動の拠点及び玄関口となっており、沿線地域の人々の交流と商業活性化の場として育成する必要があるため。

# 重点地区(設定する場合に記述)

秋葉原駅を中心に既存の電気街と新たな商業施設の集積が図られているが、周辺部においては、土地の高度利用化がまだ進んでいない箇所もある。TX活用による広域的な交流人口の拡大と沿線の商業活動の活性化を図るため、これらの土地利用の転換を促進することが必要である。

# 拠点施設

施設名	上野·浅草商業施設群(東京都副都心)	所 在 地	東京都台東区 上野及び浅草周辺
設 置 主 体	民間会社	管理·運営主体	民間会社
設置(予定)年月	既設	拠点施設の区分	商業施設等(省令第3条1項3号)
広域的特定活動の区分	広域的地域活性化を図る商業活動(省令第1条1項3号)	拠点施設の整備の有無	有・無

#### 拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等

#### <概要及び整備計画>

本商業施設群は、業務商業が高度に集積した都心近接に位置し、都心部の業務商業と連携を担う副都心として位置づけられている。上野は、老舗デパート(松坂屋)や昔ながらの商店街(アメ横)を中心に複合的に展開する市街地が形成されており、活発な商業活動が行われている歴史ある商業施設群である。また、浅草では、歴史的建造物(浅草寺)を中心に観光名所が複数存在し、周辺では地元名産品や伝統工芸品を取り扱う中小規模の商店が立ち並んでおり、高い集客性と活発な商業活動が行われている。また、押上・業平橋駅周辺では、東京スカイツリー(新東京タワー)と一体的に延べ23万平米の商業ビルが平成23年度に完成する予定であり、これが隅田公園や浅草寺などいった観光スポットとともにバスルートで結ばれることにより、回遊性が高まり、更なる集客性の向上及び当該地区における商業活動の一層の活性化が期待されている。

#### <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性>

本商業施設群のさらなる活性化を実現するために、秋葉原地区や六町四丁目付近地区、花畑北部地区の土地区画整理事業といったTX沿線における市街地開発事業を一体的に実施することで、 TX沿線地域の活性化及びTXを活用した拠点間の交流の促進を図ることが必要となっている。また、上野・浅草地域が従来から持っている伝統的な魅力の活用により、足立区東部をはじめとする沿 線地域の住民が、本地域を訪れるように魅力を高め、TX沿線の商業活動の活性化を促進をさせる。

#### <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係>

副都心としての位置づけや歴史や文化といった地域独自の特色を活かした商業活動の活性化させるため、沿線の居住人口とTXの利用者の拡大やTXを活用した拠点間の交流を促進することで、 本地域拠点施設への来訪者の増大を図る。

# 拠点施設で行われる広域的特定活動の内容

#### <現況>

副都心としての位置づけや歴史や文化といった地域独自の特色を活かした商業活動が活発に行われている。

#### <将来>

TX沿線の一体的な市街地開発事業が促進されることにより、沿線の広域的な交流人口が拡大し、本地域拠点施設への来訪者が増大することで、商業活動が活性化している。また、本拠点地区に隣接する押上・業平橋駅周辺では、東京スカイツリー(新東京タワー)が平成23年度に完成する予定であり、これが隅田川を挟んで浅草地区と結ばれることにより、観光を基点として商業活動の活性化が期待されている。

# 広域的特定活動との関係

# <拠点施設整備の蓋然性>

上野・浅草副都心の業務商業地域は、駅ターミナルを中心に都市基盤施設が整備され、歴史や文化といった地域独自の特色を活かした商業施設の集積もあるため、商業活動の活性化が期待されている。

## <拠点施設に設定した理由>

上野・浅草副都心商業施設群は、副都心として、業務機能、商業施設等が高度に集積しており、沿線地域の商業活動を活性化させる重要な拠点であるため。

#### 重点地区(設定する場合に記述)

# 拠点施設

施設名	北千住・南千住商業施設群(東京都一般拠点地区)	所 在 地	東京都 足立区 北千住周辺・荒川区 南千住周辺
設 置 主 体	民間会社	管理•運営主体	民間会社
設置(予定)年月	既設	拠点施設の区分	商業施設等(省令第3条1項3号)
広域的特定活動の区分	  広域的地域活性化を図る商業活動(省令第1条1項3号)	拠点施設の整備の有無	有 · 無

#### 拠点施設の現況及び計画期間内の整備計画等

#### <概要及び整備計画>

本商業施設群は南千住以北の地域拠点であり、沿線のターミナル機能と周辺地域活性化の中核として、業務、商業を始めとする様々な商業系活動が展開する地域である。南千住では、新拠点として整備された商業施設(リバーハープブラザ)のほか、西口再開発事業により、駅前広場と一体的に整備される複合商業施設が平成22年に完成する予定となっており、駅へのアクセス向上と当該地区における商業活動の一層の活性化が期待されている。北千住では従来持つ魅力の一つである下町情緒が残る商業施設と新たに整備された商業施設(千住ミルディス)等の魅力ある拠点施設の集積も進んでおり、TX沿線地域の商業活動の中核を担う拠点として期待されている。

#### <拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業との一体性>

本商業施設群のさらなる活性化を実現するために、秋葉原地区や六町四丁目付近地区、花畑北部地区の土地区画整理事業といったTX沿線における市街地開発事業を一体的に実施することで、 TX沿線地域の活性化及びTXを活用した拠点間の交流の促進を図ることが必要となっている。また、水辺空間と一体となった整備や新旧対照的な商業施設など魅力ある広域的商業施設群により、 足立区東部をはじめとする沿線地域の住民が、本地域を訪れるように魅力を高め、TX沿線の商業活動の活性化を促進をさせる。

#### <目標と広域的特定活動・拠点施設との関係>

水辺を活かした商業施設や交通結節点としての集客力を活かすため、TX沿線の市街地開発事業を推進し、沿線の居住人口とTXの利用者の拡大やTXを活用した拠点間の交流を促進することで、本地域拠点施設への来訪者の増大を図る。

## 拠点施設で行われる広域的特定活動の内容

#### <現況>

魅力ある大規模な商業施設が複数存在し、TX開通による都心部アクセスの利便性は高まっており、広域的な商業活動の地域拠点としての集客力は高い。

#### <将来>

TX沿線の一体的な市街地開発事業が促進されることにより、沿線の広域的な交流人口が拡大し、本地域拠点施設への来訪者が増大することで、商業活動が活性化している。北千住駅東口周辺 のJT社宅跡地を活用した大規模開発の機運も高まっており、広域的な商業活動の拠点群としてさらなる集客力の発揮が期待できる。

## 広域的特定活動との関係

## <拠点施設整備の蓋然性>

南千住・北千住の業務商業地域は、交通結節点であるターミナル駅を中心に、交通利便性も高いため、今後も商業の集積が進むことが見込まれ、地域の拠点として商業活動を進めるには適した 地域である。

# <拠点施設に設定した理由>

本拠点群は、交通結節点として魅力ある大規模な商業施設を複数擁しており、TX沿線地域の広域的な交流人口を拡大し、沿線地域の活性化を図るさせる重要な拠点であるため。

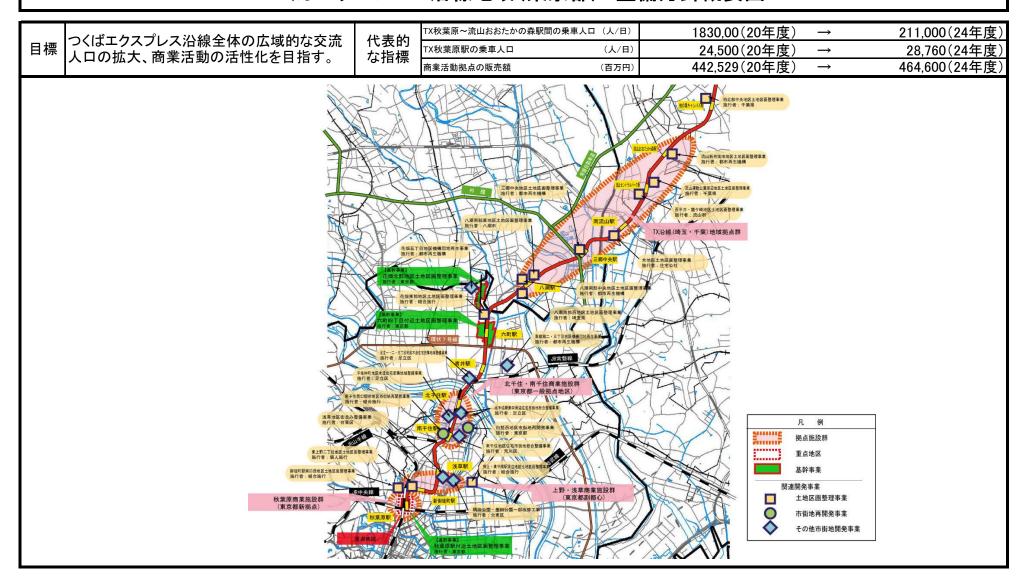
#### 重点地区(設定する場合に記述)

# 広域的地域活性化基盤整備計画の整備方針と基本的な方針等との整合性

計画	面の整備方針		方針に合致する主要な事業
	広域商業活動の拠点として、既存の商業施設と連携した新たな商業負		秋葉原駅付近土地区画整理事業
	産業の集積を図り、大規模な商業施設等が高度に集積し、東京の都		
	る骨格となる新拠点の形成を目指す。		
	TX沿線の交流人口の増加を図るため、まちづくりの促進により魅力的居住環境の形成による居住人口の増加を図るとともに、TX駅へのアク		
	店住環境の形成による店住入口の増加を図るとともに、「大駅へのデュ  備により、都市交通基盤を充実させTX利用客の増員を目指す。	ノセ人担めの登	化畑北部工地区凹登理争未 
	開により、即中又過坐血と九天でと「八門川石の相負を日泊す。		
基本	- - 的な方針等との整合性(※1)		
	区分	整合性等 の有無	左記の理由等
1	広域的地域活性化のための基盤整備に関する基本的な方針との適 合の有無	有・無	基本方針における方向、事項との整合が図られている。
2	国土形成計画、社会資本整備重点計画、環境基本計画との調和の 有無	有・無	「社会資本整備に係る関東ブロックの将来の姿」にて、TX沿線地区土地区画整理事業は、 【主要事業】に位置付けられている。「首都圏広域地方計画」(素案)との整合が図られている。関東地方の社会資本の重点整備方針(素案)において、【主要事業】に位置付けられている。
3	北海道総合開発計画、沖縄振興計画との調和の有無 (北海道及び沖縄のみ回答)	有 ・ 無	
4	その他の計画等との整合性の有無	有 無	「首都圏整備計画」にて、東京中心部における拠点として秋葉原地区、首都圏における住宅供給の拠点として、六町四丁目付近地区、花畑北部地区の土地区画整理事業を推進することとされている。「都市再生緊急整備地域方針」にて、秋葉原地区は、TX整備に合わせた交通拠点機能を強化等により、電気街と連携した世界的なIT関連産業拠点を形成することとされている。「宅鉄法に基づく東京都基本計画」にて、六町四丁目付近地区、花畑北部地区は、重点地域等に指定されており、土地区画整理事業を推進することとされている。「東京都市計画都市再開発の方針」にて、秋葉原地区、六町四丁目付近地区、花畑北部地区は、市街地再開発を促進すべき地区に指定されている。
<b>⑤</b>	関係市町村への意見聴取の有無(※2)	有・無	関係する区について、個別に意見聴取を行った。
<b>6</b>	他の都道府県への意見聴取の有無(※2) (他の都道府県との境界にかかる計画の場合に回答)	有 ・無	他の県との境界にまたがる基幹事業はないため。
広垣	<b>は地方計画協議会での取扱い(※3)</b>	有 ・ 無	
その	)他		

つくばエクスプレス沿線地域(東京都) 所在地 東京都千代田区、台東区、墨田区、足立区 有)無 面積 重点地区 重点地区 (仮称) 秋葉原駅電気街口駅ビル (仮称) 秋葉原計画 秋葉原ITセンター 延床 約 9.393 m TOKYO TIMES TOWER 延床 約 31,990 m (秋葉原クロスフィールド) 地上 7 階 地上 19 階、地下 3 階 H21.9 完成予定 H22.8 完成予定 · 延床約39,500 ㎡ ダイビル · 住宅 318 戸 ・延床 約 50,200 m ・地上40階、地下1階 ・地上31階、地下2階 · H16.9 完成 · H17.3 完成 UDX (鹿島·NTT 都市開発) ·延床約161,600 ㎡ ・地上22階、地下3階 · H18.3 完成 神田消防署 · 延床 約 12,000 ㎡ ・住宅 33 戸 ・地上 12 階、地下 2 階 門面 · H16.6 完成 インテージ秋葉原ビル · 延床 約 20,200 ㎡ · 住宅 73 戸 ·地上19階、地下2階 · H17.11 完成 世上 10 階、地下 1 階 H21.2 完成予定 (仮称)アーバン BLD (仮) TX 秋葉原駅開発ビル AKSビル ・延床約14,700 m<sup>2</sup> ·地上18階、地下2階 H21.11 完成予定 · H20.4 完成予定 · 延床 約 10,900 ㎡ 富士ソフト秋葉原ビル •地上8階、地下1階 ヨドバシカメラ 秋葉原センタープレイスビル · H16.10 完成 · 延床 約 58,400 ㎡ · 延床 約 63,500 ㎡ · 延床 約 13,800 ㎡ ·地上31階、地下2階 ·地上9階、地下6階 ·H17.9完成 • 地上 16 階、 · H19.2 完成 地下2階 · H19.4 完成 4

# つくばエクスプレス沿線地域(東京都) 整備方針概要図



# 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート(1)

1) 事業の実施状況

<u>都道府県名:東京都</u>計画の名称: つくばエクスプレス沿線地域広域的地域活性化基盤整備計画

I / 事未の夫他认述						
計画の整備方針	計画の整備方針    事業区分    事業名		事業実施状況	事業未実施の理由		
大規模な商業施設等の高度集積	基幹事業	秋葉原駅付近地区土地区画整理事業	0			
T X 駅へのアクセス向上	基幹事業	六町四丁目付近地区土地区画整理事業	Δ			
「人劇へのアクセス四上	<i> </i>	花畑北部地区土地区画整理事業	Δ			
<del>-</del>		·	o -1	·		

〇:計画期間中に完成 公:計画期間終了後に完成見込み - : 事業を中止

2)目標の達成状況

26年6月現在

計画目標	事業効果の確認方法	指標名	従前値	目標値	評価値
TX沿線地域の商業拠点及び良質 な住環境の形成を推進し、商業活		TXの乗降客数	183,000/人•日(H20年)	211,000/人•日(H24年)	235, 640/人•日
動の促進、沿線地域の居住人口と	計画で定めた目標指標	秋葉原駅TX降車客数	24,500/人·日(H20年)	28,760/人·日(H24年)	28, 995/人•日
TXの利用者の拡大、TX沿線の 持続的活性化を実現する		商業活動拠点の販売額	442,529百万円(H20年)	464,600百万円(H24年)	評価値算出不可

# 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート(2)

3) 目標達成・未達成への事業の効果の影響分析

0/日禄廷茂・不廷戍・の中未の別木の影音月刊							
		計画で定めた目標指標		その他定性的な成果			
事業効果の確認方法	TXの乗降客数	秋葉原駅TX降車客数	商業活動拠点の販売額	官民連携による分かりやすく 快適な周遊ルートの確保			
事業効果の発現状況	TXを利用した沿線地域の人口交流・活性化が進み、目標値を達成できた。		秋葉原駅のTX降車客数の着実な増加が秋葉原地区の集客に貢献しており、また、アニメ・サブカルチャーなど地域の独自性を持った情報発信やメディア露出が続けられていることから、重点地区内の商業活動の活性化につながるものと見込まれる。				
外部要因の影響	沿線の民間開発が進み、宅地開発だけでなく、スカイツリーをはじめ観光スポットの賑わいにより、TX利用客が増加した。	かにも、大規模家電量販店の開	秋葉原TMOによるエリアマネジメントの充実。大規模家電量販店、AKB劇場などの集客が大きく寄与した結果、販売額に良い影響があるものと考える。				
目標達成・未達成の要因 (問題点の把握)	秋葉原駅周辺の開発の促進、沿 線区域の開発が進み、目標が達 成できた。	秋葉原駅周辺の開発が進み、目 標が達成できた。	重点地区内の小売販売額の統計 データはH24年度以前のものしか ないため、目標値について検証 できない。				
目標の達成・未達成区分	S	S	B (想定)				
全体計画の総合評価			ずにし、沿線の宅地開発、観光スポ 回り、TX沿線の持続的な活性化の基				

S:計画推進による効果が確認され、評価値も目標値を上回った

A:計画推進による効果が確認されたが、評価値が目標値には達していない B:計画推進による効果が確認できなかったが、評価値が目標値を上回った C:計画推進による効果が確認できず、評価値も目標値には達していない

# 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート(3)

# 4) 今後の活性化方策の検討

①未達成目標の改善方策

計画で定めた目標指標	目標の達成状況	改善善方策
T Xの乗降客数	S	
秋葉原駅TX降車客数	s	
商業活動拠点の販売額	B(想定)	乗降客数の増、まちの賑わい創出に貢献した土地区画整理事業(ハード)が整備完了したので、その賑わいを一層発展させるため、秋葉原TMOによるエリアマネジメントや地元観光団体による情報発信など多様な主体によるソフトの取り組みが行われており、今後も海外にまで知られる「アキハバラ」としての活性化が続けられる。

# ②今後の広域的地域活性化方策

秋葉原地区は、工事を完了し、平成23年3月に土地区画整理事業の換地処分を終えている。 今後については、六町・花畑北部地区の土地区画整理事業の完成に向けて引き続き進捗を図ることにより、TX沿線地 域の居住人口とTXの利用者の拡大、TX沿線の持続的活性化を実現する。

5)フォローアップ

計画目標	フォローアップが必要な目標指標	フォローアップ時期	フォローアップの公表方法
推進し、商業活動の促進、沿線地域の居住人口とT	商業活動拠点の販売額	<b> </b>	東京都都市整備局ホームページ にて公表予定
Xの利用者の拡大、TX沿線の持続的活性化を実現 する			